



参考：世界旅行産業会議(WTTC)「PROGRESS AND PRIORITIES 2006/07」、国際観光振興機構(JNTO)「国際観光白書2006」ほか

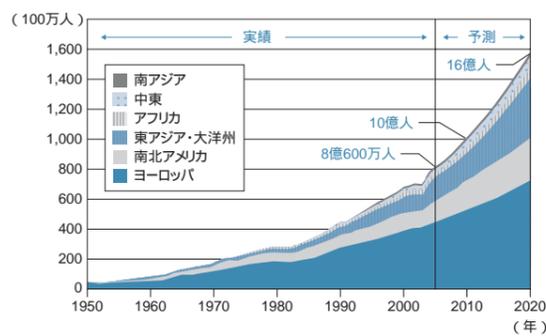
# 世界の観光産業

17

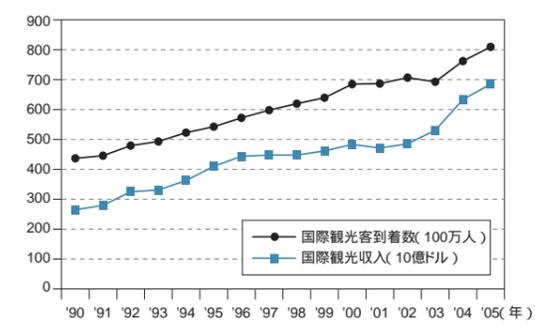
## B 成長する国際観光 DATA

出典：UNWTO「Tourism Highlights 2006 Edition」、WTTC「World TRAVEL&TOURISM CLIMBING TO NEW HEIGHTS」、JNTO「国際観光白書2006」

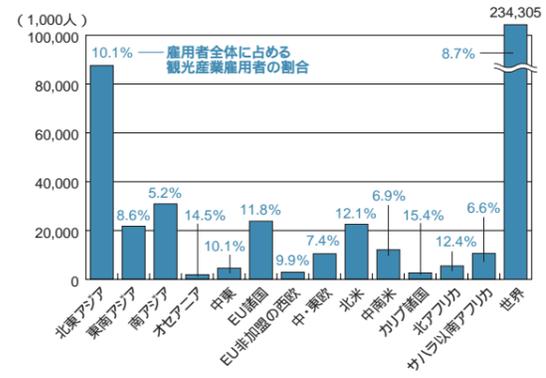
(グラフ1) 国際観光客到着数の長期予測 (1950-2020)



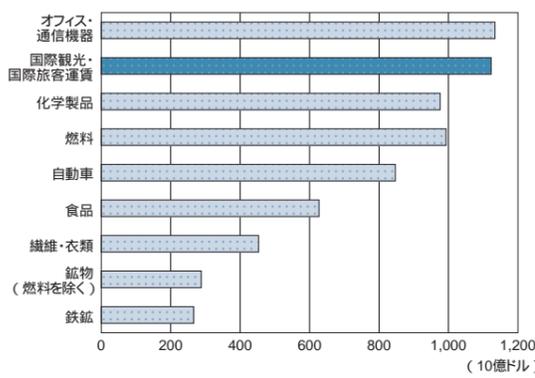
(グラフ2) 国際観光客到着数と国際観光収入の変遷 (1990-2005)



(グラフ3) 観光産業雇用者数 (2006年推計)



(グラフ4) 主要商品分類別輸出額 (世界総額, 2004年)



### 伸びるアジア・中東・アフリカ

テロ、自然災害、石油価格の上昇など、観光産業にダメージを与えかねない要素が山積みの昨今だが、外国を訪れる客は増え続け、2005年の国際観光到着客数は過去最高の8億600万人に達した。客数の増加に伴い、国際観光収入も大きく伸びている。UNWTOの長期予測では、この勢いは加速し、2020年の到着客数は16億人に達するだろうとしている。行き先については、東アジア・大洋州、南アジア、中東、アフリカ地域に向かう観光客の伸びが大きい。

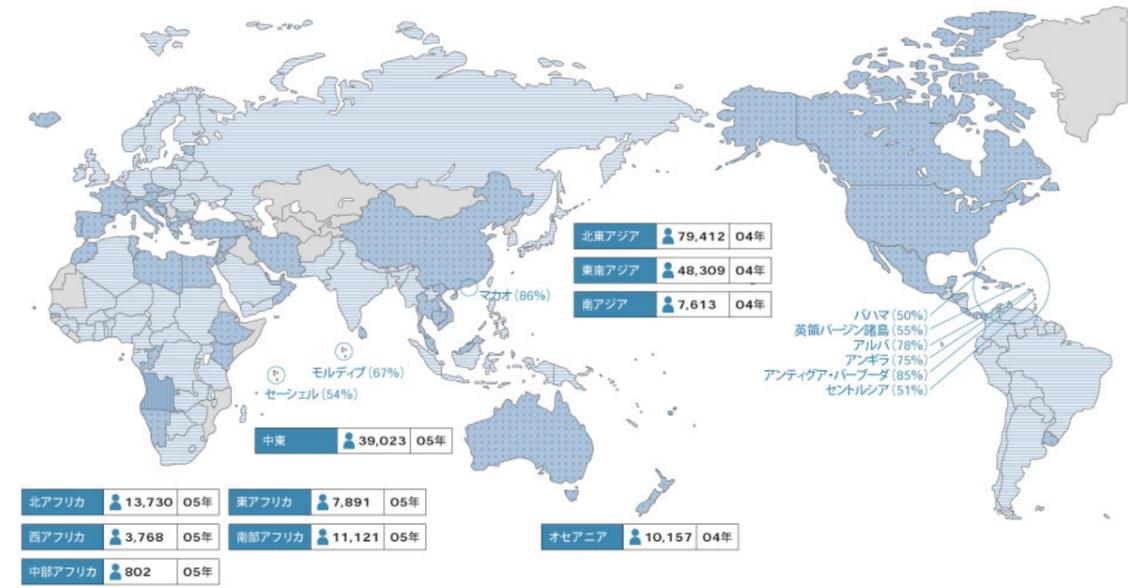
観光産業は大きな雇用を生み出している。WTTCは、06年は世界の全雇用者数の約8.7%に相当する2億3,430万人が観光産業に従事すると推計した。また、国際観光収入を輸出と見なした場合、04年の世界の国際観光収入と国際旅客運賃収入の合計は、モノとサービスの輸出高総額の約1割を占め、燃料や自動車輸出入額を上回った。観光サービスは主に民間セクターが担うものだが、その活動を支える環境整備や制度的枠組みづくりが政府開発援助には求められている。

## A 観光産業と国内総生産(GDP) DATA

出典：WTTC「World TRAVEL&TOURISM CLIMBING TO NEW HEIGHTS」、世界観光機関(UNWTO)「Tourism Market Trends, 2006 Edition-Annex」

GDP全体に占める観光産業GDPの割合 (2006年推計)  
 50%以上 30~49% 10%~29% 9%以下 データなし  
 (注) 50%以上の3か国のみ数値を表示。

地域名	国際観光客到着数(1,000人)	年
北米	52,868	05年
西米	142,689	05年
中央アメリカ	5,740	04年
北アメリカ	85,854	04年
中・東欧	87,927	05年
南欧・地中海諸国	158,043	05年
南アメリカ	16,054	04年
カリブ諸国	18,091	04年



### 地域経済に大きく寄与する国際観光

世界の観光産業のトップリーダーによって設立された民間団体、世界旅行産業会議(WTTC)が推計した2006年の観光産業の規模は、世界の国内総生産(GDP)の約10.3%に相当する4兆9,638億ドル。一方、世界観光機関(UNWTO)は、05年の世界の国際観光は、1日に20億ドル以上を稼いだとしている。宿泊、飲食、交通、娯楽、土産物などに観光客が使うお金は、地域経済にとって重要な柱の一つだ。観光はほかの産業への波及効果が高いため、どの国でも期

待されている。観光による収入がGDPの多くを占めるのは、美しい海や自然が自慢の島しょ国が多い。だが、行き先については、05年の国際観光到着客数の半数以上がヨーロッパへ向けたものだった。国際観光収入についても、ヨーロッパ地域が全体の51%を占めている。05年、日本は、ドイツ、アメリカ、イギリスに次いで国際観光支出が多かった。日本人が世界各地で落としたお金が、地域経済の発展に貢献しているのかもしれない。